

## 「公共建築の日」フォーラム

- ◆開催日：平成28年11月8日（火）
- ◆開催場所：札幌第1合同庁舎 2階講堂
- ◆来場者数：134名

主催：「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会、北海道開発局

後援：北海道、札幌市、江別市、石狩市、（国大）北海道大学、（一財）北海道開発協会、（一社）北海道建築士会、  
（一社）北海道建築士事務所協会札幌支部、（公社）日本建築家協会北海道支部

今年度の「公共建築の日」フォーラムは、2つの講演テーマとフォトコンテストの表彰式を入れた3部構成プログラムとして開催しました。

講演1では、北海道開発局の苫小牧法務総合PFI事業者の今泉数則氏から「建物の長寿命を見つめる ～保全の視点から～」と題し、保全業務の実例から保守性を踏まえた設計とその検証のほか、今後のPFI事業への課題などの講演をいただきました。

講演2では、北海道大学名誉教授の角 幸博氏から「遺すことは創ること～次世代につなぐ歴史的資産～」と題して、建物を建て替えず、歴史的価値を認め、保存し、活用していくといった講演をいただきました。ここでは、それぞれのプログラムの概要を紹介します。

### ○講演1 建物の長寿命を見つめる ～保全の視点から～

今泉 数則（（株）苫小牧法務総合庁舎PFI 総括代理人）

今泉数則氏は、苫小牧法務総合庁舎PFI取締役兼総括代理人として、苫小牧法務総合庁舎整備等事業を推進しています。

このPFI事業等の事例をもとに、保全の必要性、保全を考慮した施設整備及び維持管理業務による適切な保全について具体的な事例を交えて紹介していただきました。

特に予防保全と事後保全をうまく組み合わせることにより効率的な保全が実現できること。

また、予防保全には、ある一定周期で部品交換や修繕を行う時間基準保全（TBM）と、連続した測定・監視により劣化状況を把握して部品交換や修繕を実施する状態基準保全（CBM）があり、各々のメリット、デメリットについて説明していただき、適切な保全を実施するためのポイントを解りやすく講演していただきました。



ご講演いただいた今泉氏



今泉氏による講演の様子

## ○講演2 遺すことは創ること ～次世代につなぐ歴史的資産～

角 幸博 氏（北海道大学名誉教授・札幌市豊平館修理整備等検討委員会 委員長）

角幸博氏は、北海道建築史や歴史的建物の保存活用・市民運動支援などの研究・活動を行っている他、ヘリテイトマネージャー（歴史的建造物の保全・活用に携わる専門家）の育成にも取り組まれています。

これらの活動を通して携わってきた道内の歴史的建物を事例に、建設当時の歴史的背景、建築技術の手法・継承問題や、歴史的建築物を保存するに至った経緯と建物を修復する改修等工事を行う際に生じた問題点を説明されました。

また、歴史・文化資産を生かした観光や交流など活力あるまちづくりを推進するためには、歴史・文化遺産を読み解き、ふるさとの魅力を見だし、誇りや愛着を持つことが大切である。

さらには、歴史・文化資産の再生・活用によって土地の記憶を次世代に継承することができ、これが一つのブランドになっていく可能性がある。

我々が歴史・文化資産を次世代に伝えていく上で、こういった思いや可能性を広く展開していくことが、とても大切で基本的な考え方になるとの講演をいただきました。



ご講演いただいた角氏



角氏による講演の様子

## ○フォトコンテスト講評・授賞式

「公共建築」をより身近に感じていただくために、公共建築物を様々な視点で撮影した作品を応募していただくフォトコンテストを平成15年度から実施しております。

今年度から「デジタルカメラ部門」と「携帯・スマホ部門」に分けて審査することとし、写真初心者の方やフォトコンテスト未経験の方など、より多くの方にご応募いただける機会を設けました。道内外から寄せられた今年度の応募作品に対し、審査委員長の佐藤雅英氏から応募作品の全体の印象及び入選作品に対する講評をいただきました。

### 1) フォトコンテスト講評

審査委員長：(有) フォート・アクト 代表取締役 佐藤雅英 氏

今年度の応募作品について「広く全道から115点もの力作が寄せられました。14回目ともなると公募のコンセプトが広く理解されてきたと思われ、全体的にレベルの高い作品が多く、審査も楽しく厳正に行われました。建築と人々とのふれあい、愛される建築など公共建築のもつ多様性が感じられる作品が多くありました。締め切りの関係で冬の作品が無かったのが残念ですが、今後は若い人や学生などのエネルギー溢れる作品にも期待したいと思います。」と講評をいただきました。



佐藤氏による講評の様子

## 2) フォトコンテスト授賞式

表彰式では、北海道開発局清水宮繕部長から出席された受賞者へ賞状等が渡されました。



表彰を受けるデジタルカメラ部門グランプリの木下氏



参加された受賞者記念撮影

### ○終わりに

「公共建築の日」フォーラムに御参加いただいた方々には、この場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。当イベントは、公共建築に関するキーワードからテーマを選定し、毎年開催しています。公共建築という身近にあるものを改めて意識する、そして考える機会にして頂ければ幸いです。

来年度も開催いたしますので、御参加をお持ちしております。